

# 伝承という実践 - 記憶の喚起による心意の再生と景観保全 -

The Practice of Folklore : for Preservation of Rural Scenery

山下裕作

YAMASHITA Yusaku

## 1. はじめに

島根県中国山地の山中に、大代町という農村がある。大田市から南へ、山巒を縫うように開かれた県道46号線を行くと、突然目の前が開け、海のうねりのような青々とした水田が広がる。振りかえれば秀峰大江高山。その懐に抱かれた美しい村である。

しかし、その美しい村の景観は、あまり好ましい状況にはなかった。他の村々同様、この大代も深刻な過疎高齢化に直面し、村の山や川に人の手が入らなくなったのである。夏の頃、中国山地を訪ねることがあれば、注意して見て欲しい。村を流れる小川の畔に葦や竹が繁茂し、日の光が届かない暗い川となっている。子供の頃を村で過ごした方は思い起こしていただきたい。村を流れる小川の畔は綺麗に草が刈られ、その流れる水は清冽であったはずである。その小川で何をされたであろう。魚を捕ったであろうか。泳いだであろうか。ホタルを見たであろうか。冷たい水の感触、手の中でうねる魚の生命力、暗く澄んでいた夜気、そして親や友達の笑顔。心に響く記憶や思い出をお持ちではなからうか。

## 2. 伝承ということ

私の専門は民俗学である。伝承というものを学んでいる。伝承とは古い物事を指す言葉ではない。世代から世代へ伝え承(う)ける行為を通じ、村内の人間関係を再生産することである。例えば、親が子供に何か伝えようとする、子供は親から何かを受け取り理解する、その都度、親子という最も大切な関係は絆を強くする。こうした実践行為こそ伝承なのである。私はこの大代で、サクラバエについて調査していた。稲の作神サンバイが乗る小魚のことで、古く貴重な伝承である。しかし、聞き取りを進めるうちに面白いことに気がついた。ほとんどの住民がサクラバエのことを知らないのであるが、それぞれに川の記憶を豊富に持っているのである。それは「私(それぞれの住民)」が、ハエゴ(小魚)のいる川で友達と遊んで楽しかったこと、友達と助け合って奥にあるエンコウ(河童)のいる淵へ冒険したこと、川で上手に泳げたこと、そして川で上級生に泳ぎを教わったこと、下級生に泳ぎを教えたことである。これらは住民各自の「記憶」の中にある農業農村の多面的機能である。心を奮わす心意を伴う地域資源である。

## 3. 実践により再生される心意と美しい景観

民俗学の調査は住民との共同作業である。問いかけ、応えるというコミュニケーションを通じ互いに理解を深めていく。そして、記憶を聞き取ることにより、記憶は現在に蘇る。現在の川を見て、その地区の公民館長は言った。「これでは今の子供たちは遊ばせんなあ」。そして、平成17年春、大代の二つの集落で30年ぶりに川の管理活動が再開された。葦刈り、竹刈り、川底の均平まで、集落で、あるいは個人で何度も行われた。その管理活動の間、作業にあたる住民の口からは、また多くの思い出が語られた。そして、井手

(川堰)の砂上げもして、昔のように泳げるようにしよう、という声も聞かれたのである。楽しかった川の記憶と管理活動で接した川の現況、そのギャップが少しずつ地域を維持管理する意欲を作っている。さらに、より高齢の方々も積極的に口を開き始めた。「川が綺麗になってとてもうれしい」「昔は毎年みんなでやりよりました」「川底の木組みは木工沈床いうて・・・」。こうした記憶の再生は、住民の心意の中に美しい農村の景観を再生させ、現実の実践に繋がっているのである。これこそ本来的な「文化的」な農村景観なのではないだろうか。

#### 4．美しい村

住民と共に草刈りを行ったある夜、私は川から離れたところで、すっかり暗くなった村を眺めていた。見ると、遠くの川で優しげな光が瞬き流れ、また瞬く。急いで川岸まで駆けつけた。去年まで葦が密生して近寄れなかった所である。それは、沢山のホタルであった。これまで幾度も村を訪れているのに、似たような村々を幾つも歩いてきたのに、始めて見る沢山のホタルであった。これからは、村の孫たちが、祖父母に手を引かれてこの景観を見ることであろう。他出した子供たちもその傍らにいるかもしれない。そこでは何が語られるであろうか。そして孫たちの記憶には何が残るだろうか。ホタルそのものではないだろう。共に過ごした祖父母や父母の面影、そして村を守り、川を綺麗にしてくれている祖父母たちの生き様であろう。いつか孫たちは、親親の生き様の記憶を辿り、意味ある知恵として、未来に活かしてくれるかもしれない。そうであったとき、そこにあるのは美しい村である。



図1：大代地区八反田川の管理活動による景観の変化（左が実施前、右が実施後）

#### 〔参考文献〕

- 1．山下裕作，2006，伝承という実践，現代農業 2006年5月号，農山漁村文化協会，pp.444-445
- 2．山下裕作，2006，「遊び仕事」の記憶と農村伝承 - 「過疎高齢化」という「錯覚」を超えるもの - ，2006年現代農業8月増刊 山・川・海の「遊び仕事」，農山漁村文化協会
- 3．山下裕作，2006，実践としての農村伝承 - 暮らしの記憶と農村活動の主体形成 - ，農業および園芸 81-8，養賢堂